

326
345

滿鮮産色豆取引状況



始



大正七年五月

滿鮮產色豆取引狀況

(調甲第十一號)

朝鮮銀行調查局

326-345



目次

(1)

一	色豆ノ市況	1
二	色豆ノ種類ト北海品トノ比較	2
	滿鮮品	3
	北海品	3
	兩品ノ比較	3
三	色豆ノ産地ト販路	3
四	原料色豆ノ精撰	3
五	輸送ノ徑路ト運賃	7
	滿洲品	7
	北鮮品	7
	北海品	7
	運賃	7
	滿洲品	7
	北鮮品	7
	北海品	7
	米國輸出運賃	8
六	色豆ノ相場	9
七	色豆取扱商人	11

五五五
7 6 8
寄贈

〆 寄贈本

(2)

直輸出商.....一二二

仲買人.....一二二

八 色豆改良ノ要點.....一二二

備考

本書ニ所謂滿洲品トハ南北滿一帶ノ產物ヲ謂ヒ北鮮產トハ間島地方並咸北產品ヲ總稱スルモノニシテ清津港經由移入品ヲ云フ又北海品トハ北海道產ノ稱ニシテ小樽並函館ヨリ搬入セラルルモノノ通稱ナリ



滿鮮產色豆取引狀況

神戸出張所長報告

一 色豆ノ市況



當港仲繼輸出色豆ハ久シク北海道產獨占ノ姿ナリシカ大正四年度ヨリ滿洲品ノ小口取引開始セラレ輸出當業者ノ注意ヲ喚起セリ海外市場ニ於ケル色豆ノ需要ハ歐洲戰以來逐年其ノ額ヲ増加シ殊ニ大正五年度ヨリ急激ノ増加ヲ來シ到底北海品ノミニテハ需要ニ應スルコト能ハサルニ及ヒ滿鮮品ノ大口取引ヲ促スニ至レリ

昨秋新穀出廻リ期ヨリ本年四月末迄大連港經由滿洲品原料豆ノ輸入數量ハ小手亡豆百八十車、角手亡豆百二十車、姉子豆其他雜豆六十車此ノ價格合計百八十萬圓、清津港經由北鮮品原料豆二萬噸此ノ價格三十萬圓ヲ下エサル可ク小樽並函館港經由精撰豆搬入額ハ二萬噸價格五百萬圓以上ニ達スル見込ナリ

滿洲品中北滿品ハ浦鹽斯德經由ノモノアレトモ其ノ數量至テ少シ

上記滿、鮮、北海產品ノ當市場回送額ハ計數ノ據ル可キモノナク主トシテ商人ノ取扱高ヲ綜合シ勉メテ正確ヲ期シタルモノナレトモ必シモ正確ヲ得タルモノナルヤ否ヤ斷言シ難シ然リ而シテ爾來船腹ノ不足ヲ感スルコト一層甚シク產地積出港ヨリノ回送撈々シカラス大連、小樽方面ノ停滯品夥シク又產地ニ於

(1)

(2)

ケル在荷モ例年同季ニ比シ多額ノ見込ナルヲ以テ本年度當港仲繼輸出額ハ大正六年度六百十九萬六千圓ニ比シ三割又ハ四割方以上大正五年度ニ對シ六倍半位ノ増額ヲ見ル可キ豫想ナリ
繼テ歐米諸國ニ於ケル色豆需給ノ状態ヲ考フルニ英佛市場ニ於ケル色豆ハ「アルゼリア」並南米產ヲ以テ供給セラレツツアリシカ歐洲戰局ノ發展ニ伴ヒ佛國ニ於ケル消費益加ハリ英佛兩市場トモ色豆ノ缺乏ヲ感スルニ及ンテ合衆國「カリホルニア」州產並本邦產品ノ供給ヲ求ムルニ至リ前記ノ如キ輸出數量ノ激増ヲ來セリ

如斯色豆ノ輸出ハ時局ノ影響ニヨリ急速ナル増加ヲ示シツツアルモノニシテ戰亂ノ終熄ト共ニ歐洲市場ニ於ケル需要減退ノ時期ヲ豫想セハ現時ノ好況ヲ持續スルモノトシテ戰後ノ市況ヲ樂觀スルコト能ハサレトモ又一面ニ於テ米國方面ニ於テハ新販路堅實ニ開拓セラレ一般ノ嗜好ニ投シツツアレハ戰後ト雖販路擴張ノ餘地アル可キハ勿論產地ニ於テ品質改善ヲ怠ラス輸出取引ノ連絡ヲ圖ラハ前途大ニ有望ナル貿易品タルヲ疑ハス

二 色豆ノ種類ト北海品トノ比較

色豆ノ種類ハ其ノ數多キヲ以テ產地又ハ取引地ニヨリテ形状、色合、斑點又ハ大小等ニヨリテ種々ノ名稱ヲ附ス當市場ニテモ便宜上一定ノ名稱ヲ用フ今普通ニ使用セラルルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

一	白 豆	滿 鮮 品	產 地 名	輸 出 名
一	小手亡豆	粳米豆	コテンashi Small white beans	
	角手亡豆	白莞豆	Siberian Small white beans or Harbin Kokenashi Small white beans	
	大手亡豆	同	Otenashi white beans	
二	姉子豆	花莞豆	Semi speckled beans	
三	雉豆	同	Kijimame Speckled beans	

等ヲ主トシ鶉豆、金時豆、黄豆等之ニ亞ク白豆ハ輸出ノ大宗品タルト共ニ種類ニヨリ相場ノ高低アルヲ以テ小(圓)、角、大(平)ノ三種ニ分タレ姉子豆、雉豆等モ取引額ノ増加ニ伴ヒ漸次各種ニ分類セラレ產地ヨリ回送セラレツツアルモ其ノ他ノ色豆ハ產出數量未タ少ク雜豆トシテ各種混同セラレ到着後當地ニテ手撰ニヨリ分類セラレツツアリ

間島地方ヨリ青豌豆ノ移入セラルルモノアルモ其ノ量少シ

北 海 産

(3)

北海道産色豆ハ產地ニテ一定ノ検査ヲ行ヒ品質ニヨリ輸出向ハ一等ヨリ五等迄内地向ハ甲、乙ノ各等級ニ分チ取引ノ標準ヲ定ム而シテ一、二等品ハ數量少ク種子用トシテ保存セラルルモノ多ク三等以下ヲ以

(4)

テ輸出適當品トスルモ歐米行ハ主トシテ二等品ヲ充當セラル
當地ニ於ケル北海品ノ種類左ノ如シ

- 青 豌豆
- 白 豆
- 小手亡豆
- 中手亡豆
- 大手亡豆
- 金 時 豆
- 鶉 豆
- 丸 鶉 豆
- 白丸鶉豆
- 長 鶉 豆
- 中長鶉豆
- 大 福 豆
- 中 福 豆

當地ニ於ケル色豆取引ヲ見ルニ青豌豆ハ殆ト北海品ニ限ラレ金時豆、鶉豆、福豆等ハ滿鮮品ノ出廻リ少
ナキ爲北海品ニ比シ商況引立タス獨リ白豆ハ北海品、滿鮮品共ニ產出數量多額ニ上リ海外市場ノ需要多
キヲ以テ商況活潑ニシテ輸出品トシテ兩々對峙ノ状態ニアリ北海道ハ地味概シテ肥沃、乾濕其ノ度ニ叶
ヒ施肥亦適度ニ行ハルルヲ以テ品質一般ニ好良粒ノ不同少ク光澤良ロシテ滿鮮品ニ比シ相場常ニ強含ミ
ナリ今其ノ比較ヲ示セハ左ノ如シ

北海道豆

滿洲白豆

北 鮮 白 豆

粒ノ大小	粒ノ不同少シ	粒ノ大サハ北海品ト略同一ニシテ精撰品ハ粒ノ不同少キモ屑豆多シ	粒ノ大サ比較的大ニシテ精撰品モ粒ノ不同アリ屑豆多シ
屑豆ノ多寡	屑豆少シ	暗白ナルモ光澤比較的好ロシ	光澤乏シキモ色ハ何ヨリモ白シ
光 澤	光澤好ロシ	味好良	味好良
味	味好良	乾燥不充分ノモノアリ大正六年度收穫物ハ特ニ然リ	乾燥不充分ニテ皺豆多シ
乾 燥	乾燥充分ナリ		

三 色豆ノ產地ト販路

滿洲北鮮一帶ハ寒氣酷烈ニシテ虫害ナキヲ以テ豆類ノ栽培ニ適ス就中長春、公主嶺、開原、四平街各地
方ハ小手亡豆ノ產地トシテ夙ニ知ラレ「ハルビン」地方ハ角手亡豆、大手亡豆、姉子豆其他雜豆ノ產額多
シ間島地方ヨリハ白豆ノ出廻リ多ク青豌豆ノ產額加ハリツツアリ咸北地方ヨリハ白豆ノ外雜豆ノ產出ア
ルモ其ノ額多カラス

白色ハ色豆類ノ代表的主要品ニシテ色豆取引ノ盛衰ハ一ニ白豆賣行ノ消長ニアリ白豆ハ歐米人特ニ米人
日常食用品トシテ販路廣ク小手亡豆ノ如キハ米國ニ於テ「King of beans」ノ俗稱ヲ有シ中流以上ノ階級
ニ亘リ愛用セラレ角、大ノ消費亦夥シ「クリスマス」前後ハ賣行ノ最高潮期ニシテ春季ニカケ荷捌ケ旺盛

(5)

(6)

ナリ姉子豆、鶉豆其他ノ色豆ハ白豆ト同シク歐米人ノ嗜好ニ適シ特ニ英、佛、伊方面ニ歡迎セラレ
 合衆國行輸出出色豆ノ中桑港及「シヤトル」上ケハ大部分紐育市場ニ集中セラレ「シカゴ」其他西部都市ニ分
 配消費セラレルト共ニ英佛方面ニ廻送セラレルモノ多キ見込ナリ合衆國東部ニ於ケル色豆ノ主産地タル
 「カリホルニヤ」州内ノ都市ニ於テモ近來本邦品ヲ歡迎スルニ至レリ
 加奈陀行 Vancouver 上ケハ多ク中部 Winnipeg ニ回送セラル其ノ輸出數量ハ合衆國行ノ約五分ノ一ニ
 當ル北海青豌豆ハ昨年來英國方面ニ直輸出取引アルモ一般ノ色豆ハ米國市場ニテ仲繼セラルルモノノ外
 直輸出取引ヲ見ス

四 原料豆ノ精撰

前述セシ如ク滿鮮產品中白豆ハ小、角、大ノ三種ニ分タレ姉子豆、雉豆等モ出廻リ高ノ増加ニ伴ヒ各種
 ニ類別セラレテ産地ヨリ積出サレツツアルモ鶉豆、金時豆等ハ産出額少ナキ爲雜豆トシテ廻送セラレツ
 ツアリ此等ヲ原料豆ト稱ス輸出品トシテハ手撰作業ニヨリテ屑豆竝不純物ノ混入ヲ除キ豆ノ大サヲ揃ヘ
 雜豆ハ種類別ニスルト共ニ前記ノ作業ヲナササル可ラス此等ノ精撰作業ノ爲入港ノ色豆ハ假置場 (Bond
 ed ware house) ニ收容シ賣買當事者立會ノ上女工ヲ用ヒ精撰作業ヲナシメ一〇〇「ポンド」麻袋入トシ
 現場又ハ本船ニテ受渡ヲ行フ精撰費用ハ種類又ハ出廻リ期ニヨリ差違アルモ和百斤ニツキ二圓ヨリ四圓

(7)

迄ニシテ屑豆及不純物ハ一割ヨリ二割迄ヲ普通トス北海道品ハ雜穀輸出聯合組合ノ検査ヲ經テ積出サレ
 特約品ハ一〇〇「ポンド」入輸出品トシテ回送セラレ其ノ儘本船積ニセラルルヲ以テ便利多シ

五 輸送ノ徑路ト運賃

輸送ノ徑路

滿洲品

沿線市場ニ積出サレタル產品ハ鐵路ニヨリ大連港經由船便ニヨリ當港ニ回送セラルルモノ多ク一部浦鹽
 斯德廻リトナルモノアリ原料豆ハ一五〇斤ヨリ一七〇斤入麻袋ニテ荷送セラルルヲ普通トス

北鮮品

間島産竝北鮮地方産ハ呎入(五斗)ニテ清津港經由回送セラル

北海品

北海品ハ小樽ヨリ船積ニヨリ回送セラルルモノノ外國館ヨリ積出サルルモノ亦多シ神戸、横濱向搬出割
 合ハ五ト二位ノ比例ニシテ神戸上ケ數量ハ漸次増加シツツアリ

運賃

滿洲品(長春積一車三十噸)

長春大連間汽車運賃發着手数料共 二五八、〇〇
 大連埠頭船車接續費 一九、〇〇
 滿洲輸出税(一四一圓位ノ相場トシテ百斤十三錢替) 五八、九六
 大連神戸間船賃(百斤ニツキ定期船四十五錢社外船十錢) 二〇四、一二
 保險料(百圓ニツキ二錢五厘) 一二、五〇
 神戸船移シ 六、三五
 船賃並陸上費(百五十斤入一袋十五錢) 四五、三六
 計 六〇四、二九
 一噸當リ 二〇、一四
 北 鮮 品(清津積一噸當リ) 一五圓——二〇圓
 北 海 品(小樽積一噸當リ) 二二圓五〇——二三圓
 小樽神戸間運賃諸掛 米國輸出運賃(一噸當リ)
 神戸、パシフィック、コスト間運賃諸掛共 八六圓(八六圓——九〇圓)

兩 解 賃 二圓(二圓——二圓五〇)
 パシフィック紐育間鐵道運賃 三〇、六〇
 海上保險並戰時保險料 三、〇〇
 計 一一一、六〇

六 色 豆 ノ 相 場

色豆ノ對外輸出取引ハ戰時急速ナル發展ヲナシ現今ノ相場ハ戰前ニ比シ三割ヨリ五割方騰貴ノ實情ニシ
 テ海外市場ニ於ケル需給關係並戰局ノ推移ニヨリ相場ノ變動甚タ多シ今昨年新穀出廻リ期タル八月以降
 本年四月末迄ノ毎月平均相場ヲ示セハ左ノ通りナリ
 備考 別表ノ相場ハ當該月平均相場ヲ示ス
 價格ハ輸出向精撰和百斤神戸倉渡トス
 神戸輸出色豆相場月別表(滿鮮産)

種 類	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月	一 月	二 月	三 月	四 月
白豆 小手亡豆	円	円	一八〇〇 円	一九〇〇 円	一八〇〇 円	二〇〇〇 円	二一〇〇 円	二五五〇 円	二二〇〇 円

種	類	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月
青	碗豆						三三五〇	一五〇〇		
金	時豆					九〇〇	九五〇	一〇〇〇	一一〇〇	
九	鶉豆					二〇〇	三三五〇	一四五〇	一五〇〇	一〇〇〇
雉	豆					九五〇	一〇〇〇	一一〇〇	一二〇〇	一一〇〇
姉	子豆					一〇七五	二二五〇	三三五〇	二六五〇	一五〇〇
同	大手亡豆					一五〇〇	一七〇〇	一八〇〇	二〇五〇	二〇〇〇
白	角手亡豆					一五〇〇	一七〇〇	一九〇〇	二〇〇〇	一九八〇

神戸輸出色豆類相場月別表(北海道産品)

種	類	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月
青	碗豆	九〇〇	一〇五〇	一二〇〇	一三〇〇	一五〇〇	一六〇〇	一七〇〇	一四〇〇	一三五〇
白	小手亡豆	三〇〇	一四〇〇	一九〇〇	二〇〇〇	一九五〇	二一〇〇	二四〇〇	二七〇〇	二四〇〇
同	中手亡豆			一七〇〇	一九〇〇	一九〇〇	二〇〇〇	二三〇〇	二五〇〇	二三五〇
同	大手亡豆			一七五〇	一九五〇	一九〇〇	二〇五〇	二三七五	二六五〇	二三七五

種	類	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月
金	時	七八〇	八七〇	九三五	一三〇〇	一二五〇	一四〇〇	一四八〇	一七〇〇	一三〇〇
鶉	丸鶉				一七〇〇	一六五〇	一八五〇	二〇〇〇	二三五〇	二二〇〇
同	白丸鶉				一八五〇	一八五〇	二二〇〇	二二〇〇	二三五〇	二二〇〇
同	長鶉	一〇五〇	二二〇〇	一四〇〇	一六〇〇	一五〇〇	一七〇〇	一七〇〇	一七〇〇	一四五〇
同	中長鶉	七五〇	九〇〇	九〇〇	一二五〇	一二〇〇	一三八〇	一四五〇	一六五〇	一二七五
大	福豆				一七五〇	一七〇〇	一九〇〇	一九〇〇	二二〇〇	一九五〇
中	福豆				一九五〇	一九〇〇	二〇〇〇	二二〇〇	二三五〇	
室	隱元				一八五〇	一八五〇	一九〇〇	二二〇〇		
熊	本隠元				一八〇〇	一七八〇	一九〇〇	二二〇〇	二四〇〇	二二〇〇

北海道品ハ八月下旬ニ手合始リ新穀相場已ニ定ル十月中旬ニ入り新穀ノ出廻リ物多キモ満鮮品ハ十一月下旬ヨリ弗々入市シ相場ハ十二月ニ入り定マルヲ例トス
 北海道品ト競争ノ地位ニアル満鮮品トシテハ成ル可ク北海道品ト同時ニ相場ヲ市場ニ提供シ又新穀取引ヲ北海道品ト同時期ヨリ行ハシムル爲當地ヘノ回送ヲ從來ヨリ速カナラシメタシ

七、色豆取扱商人

當地ニ於ケル色豆取扱商人中主ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

直輸出商		仲買人	
三井物産	鈴木商店	長瀬商店	増田屋
湯淺商店	東條貿易	小寺洋行	稻畑商店
野澤組	内外貿易	大黒屋	阿部幸商店
武内商店	油谷商店	直木商店	夫馬商店
協信洋行	森六商店	新原商店	岸上商店
角石商店	日本米穀株式會社	海江田商店	

八 改良ノ要點

滿鮮産色豆ノ出廻リ高ハ逐年其ノ數量ヲ増加シ輸出向トシテ北海品ト相並ヒ稱セラレルニ至リタリト雖品質ニ於テハ未タ北海品ニ及ハス滿洲北鮮地方ハ北海道ト同シク寒氣強ク害蟲ノ潜伏ヲ妨ケ蟲害ノ憂少ナキヲ以テ豆類ノ栽培ニ適ス從テ指導獎勵ノ宜シキヲ得ハ優ニ北海品ニ匹敵スル良品ヲ生産シ得ヘク産額ノ增加期シテ待ツ可キモノアラン今改良ノ要點ヲ列記セハ左ノ如シ

- 一 輸出仲繼地ニ於ケル取扱ノ品名ニヨリ産地ニテ精撰シテ積出スコト
 - 二 屑豆竝不純物ノ混合ヲ可成少クスルコト
 - 三 乾燥ヲ充分ニスルコト
 - 四 船車ノ連絡ヲ便ニシ回送ヲ速カナラシムルコト
- 以上一項ヨリ三項迄ノ目的ヲ達スル爲組合組織ノ検査所ヲ設ケ品質ノ向上ヲ圖リ輸出取引ヲ圓滑且敏速ニ行ハルルコトヲ勉ムルコト

326
345

終